

# 1年生から将来を考えさせ 目標を持って今をしつかり進む

## 愛知県 名古屋市立千鳥丘中学校

名古屋市立千鳥丘中学校は、かつて生徒指導に多くの課題を抱えていたが、キャリア教育に力を入れ始めてから徐々に落ち着きを取り戻した。現在は、3年生2学期からのキャリア教育の充実に着手。志望校を探すだけの進路指導にとどまらない「生き方指導」を追求する。

### ●課題意識

#### 生徒指導や保護者対応で 募る教師の疲弊感

名古屋市立千鳥丘ちどりがおか中学校は、名古屋市東南に位置する緑区北部の住宅街にある中規模校だ。生徒は落ち着いてのびのびと学校生活を送っているが、数年前までは近隣校の中でも生徒指導が厳しいといわれる学校だった。連日のように、生徒の問題行動が起こり、そうした生徒から身を守るように、他の生徒はひっそり学校生活を送っていた。保護者から理不尽な意見を寄せられることもあり、教師

は生徒と保護者双方の対応に追われる状況が続いていたという。

2010年度に赴任した清水克博校長は、そうした生徒の校則違反や保護者の理不尽な要求には毅然とした態度で臨む方針を明確にした。併せて、改革の柱にしたのがキャリア教育だった。

「本校の校訓は『集・学・伸』ですが、当時の生徒は『集う』のではなく『群れる』の状態でした。同じ目的の下に集う集団にするためには、生徒指導だけではなく、キャリア教育を充実させ、生徒が夢や目標を持つことが必要だと考えました」（清水校長）

### School Data

◎1974（昭和49）年に名古屋市立鳴海中学校分校として設立。「集・学・伸」を校訓として、主体的に考えて行動する生徒の育成を目指す。校名は、校区にある松尾芭蕉生前唯一の建立句碑「千鳥塚」に由来する。



校長◎清水克博先生

生徒数◎352人 学級数◎11学級（うち特別支援学級1）

所在地◎〒458-0801 愛知県名古屋市緑区鳴海町字山ノ神108

TEL◎052-891-8601

URL◎<http://www.chidorigaoka-j.nagoya-c.ed.jp/>

公開研究会◎未定

### ●職場訪問・職場体験の改善

#### 「ドリームマップ®」で夢を可視化 その上で訪問先を選択

改革では、まず1年生の職場訪問、2年生での職場体験の改善に着手した。

11年11月、1年生は、職場訪問の事前学習で「ドリームマップ®」づくりに取り組んだ。これは、自分の夢を文章や写真などを使って台紙に表現し、漠然と描いている夢を視覚化するというもの。生徒に、目標を持って生活する大切さに気付いてほしいというねらいがある。そして、その夢に関連する事業所を訪

# 社会を生きる力を育む——キャリア教育の視点で教育活動を捉え直す

問し、職業人に話を聞き、一人ひとりがレポートにまとめる。事後には職場訪問発表会を開き、レポートの内容を生徒間で共有する。

ドリウムマップ®作成時には、一般社団法人ドリウムマップ普及協会から講師を招き、指導に当たってもらった。教師に負担が掛かりすぎないように、清水校長の方針として可能な限り外部人材を活用している。

「教育活動は継続性が大切です。これなら出来そうだと見通しを持ってもらうためにも、外部の力を活用し、なるべく教師の負担を減らすようにしています。1つでも新しい取り組みが定着すれば、先生方は達成感が得られますし、生徒のためにもっと頑張ろうという思いも高まります。それが次の取り組みにつながると思っています」(清水校長)

2年生の職場体験でも、事前事後の指導を徹底する。プロの講師を招いたマナー講習会後、3日間の職場体験を行い、事後は礼状の送付、レポート作成、発表会を行う。

職場訪問・職場体験のいずれも、生徒は事業所一覧から第4希望までを選び、志望理由を書く。将来なりたい職業に直結する訪問先に決まる生徒はごく少数だ。第2、第3希望に決まる生徒もいれば、一覧表に希望する職業がない場合もある。3学年主任の佐藤愛先生は次のように説明する。

「実社会では、自分の思い通りの仕事に就けるとは限りません。希望と異なる職種でも、

一生懸命に取り組むことによって、新しい発見があったり、自分に足りないところに気付いたりして、自分を磨こうとする意識が芽生えることを期待しています」

事後のレポートでは、体験した内容だけでなく、訪問先で学んだこと、大切だと思ったことを書く生徒が目立つという。

## ●「ドリカムカード」の取り組み

### 学校生活の軌跡をカードにまとめてファイリング

次に着手したのは、3年生のキャリア教育だ。それは、現3年生の気質とも関係している。同学年は入学時から問題行動が少なく、明るく元気な生徒が多い半面、特に男子生徒に精神的に幼い傾向が見られた。進路指導主事の清水亮先生はこう話す。

「現3年生は仲が良く、学校行事ではクラス一体となって頑張り、力を発揮します。学校生活では友だちと一緒に同じ目標に向かって頑張れるのですが、いざ進路に向けて一歩を踏み出すとなると、自分が何をしたいのか、どの方向に進めばよいのか分からない生徒が目立ちました。集団で培ってきた力を、自身の進路を切り開く力に換えられるように、教師が後押しする必要があります」

そこで、13年度、3年生2学期に始めたのが「Dreams Come True Card」(以下、ドリカムカード)だ。これまでの進路学習や学習



名古屋市長千鳥丘中学校校長  
**清水克博** しみず・かつひろ  
「実践に基づいた確かな自信を生徒が持つよう、学校づくりを行っている」



名古屋市長千鳥丘中学校  
3学年主任。社会科担当。「努力する者夢を語る」。一緒に夢を語る生徒を育てていきたい」



名古屋市長千鳥丘中学校  
**清水亮** しみず・りょう  
進路指導主事。数学科担当。「生徒がきちんと目的を持って進路選択が出来るよう心掛けて指導している」

の軌跡を振り返るため、志望校の志望理由や自己プロフィール、進路講演会、体験入学の振り返りなどを記入し、ファイリングしたポートフォリオだ。

「目的意識を明確に持ち、そこに向かって努力した生徒は、思い描いた通りの環境ではなくても、新たな目標を見つけて頑張ることが出来るでしょう。一方で、『どこかに行けばよい』という気持ちで進路を決めた生徒は、第1志望校に入学しても、モチベーションの維持が難しいのではないかと思います。ポートフォリオにこれまでの経験とそこで考えたことを書き出し、自分の成長を客観的に見つめさせることによって、選択のプロセスを強く意識させ、自分の意思で進路先を選択・決定させようと考えました」(佐藤先生)

## 志望校選択に向けて 3年間の中学校生活を振り返り起こす

3年生2学期以降の指導の流れはおおよそ次の通りとなる(図)。

9月は第2回進路希望調査、10月は第3回進路希望調査を基に、第1志望校の志望理由やそのために努力していること、体育大会や合唱コンクールなど学校行事の振り返りを通して自らの成長を客観的に見つめる。

11月末には、3年間を振り返り、過去に参加した委員会・係活動、校内表彰などの活動履歴、得意科目や尊敬する人、最近読んだ本、自己アピールなどを、ファイリングされた過去のドリカムカードや行事の振り返り、通知表などを見ながら記入する。主に高校入試の面接(\*)を意識した事項を通して、自分の内面を掘り下げていく。12月は、第1志望校に入学した自分の姿に思いを巡らせ、更に、進路が決定する1~3月は、中学校卒業後に伸ばしていきたい自分の特性、「選ばれる人」になるために必要な力など、高校・大学卒業後を見据えた将来を考えさせる。

「志望校に合格したらそれで終わりという目標ではなく、どのような人間になりたいのか、どのような生き方をしたいのかということを問い掛けていきたい。進路が決まった時期こそ、改めて未来の自分を考える良い機会だと考えています」(清水亮先生)

図

### 「ドリカムカード」の活用の流れ

- 9月 第2回進路希望調査に合わせて、志望理由やそれに向けて頑張っていること、直前に終えた体育大会の振り返りを書く(ドリカムカード①)
- 10月 合唱コンクールの振り返り、服装や身だしなみ、授業の取り組み方など、生活態度をチェックする(ドリカムカード②)
- 11月 第1志望校の志望理由、そのために努力していること(ドリカムカード③右図参照)、高校の先生を招いた進路講演会に向けた事前調査と事後記録(ドリカムカード④)、教育相談(保護者会)を控えての学習・学校生活・家庭生活等に関するアンケート(ドリカムカード⑤)、3年間の活動履歴と自己PR(ドリカムカード⑥右下図参照)
- 12月 第1志望校の志望理由と、志望校での高校生活を想像して、その様子を書く(ドリカムカード⑦)
- 1~3月 中学卒業後に伸ばしていきたい自分の特性、「選ばれる人」になるために必要な力や展望を書く

\* 同校の資料を基に編集部で作成



写真 取材当日は学活の時間を使い、ドリカムカード⑥を書く活動を行っていた。活動前半は私語をしていた生徒も、机間指導をする佐藤先生から声を掛けられると、自分を振り返り、後半は集中して自己PRなどの記入に取り組んでいた

#### ドリカムカード③

Dreams Come True Card  
～ 新しい扉を開くために ～

体育大会、合唱コンクールと行事に合わせた2学期も、振り返り機会を確保しようとしています。これから11月に入ると進路に関する振り返りが始まります。その際に、自分の実績と向き合い、整理してみよう。次の一歩を踏み出すヒントが隠れているでしょう。

① 振り返りシートに向けて、自分の準備や取り組みができたか振り返りましょう。

② 第1志望校の志望理由を整理して、今後の学習への取り組み方の改善点を具体的に考えましょう。

③ 第3回進路希望調査で、第一志望とした学校について、その志望理由(志望動機)を次の3つのポイントで整理し、最終的に書きましょう。

- その学校のどのような点がよい(自分に誇っている)と感じたのか
- その学校で自分自身をどのように成長させたいと考えているのか
- その学校を卒業した先に、どのような進路を考えているのか

第1志望校 学校 科 コース

#### ドリカムカード⑥

Dreams Come True Card  
～ 自己プロフィール ～

\* 自分の3年間の振り返りを経て、丁寧に記入しましょう。  
\* 入学準備や必要書類の提出は急務になります。資格や表彰などは、取得年月日も含めて、正確に書きましょう。  
\* 自己PRについては、面接練習の土台となります。自分自身とよく向き合ってください。

姓	名	フリガナ	性別	( )
生年月日	平成 年(西暦) 年 月 日生(青 歳)			
現住居	〒( ) ( ) 番( ) 号( )			
旧住居	(〒) ( ) ( ) 番( ) 号( )			
	10年 生	2年 生	3年 生	
委員会	前期	前期	前期	
後期	後期	後期	後期	
部活動	前期	前期	前期	
後期	後期	後期	後期	
表彰	部	部	部	
奨励	奨励	奨励	奨励	
校内外				
その他				

上はドリカムカード③、左はドリカムカード⑥。ドリカムカード⑥は3枚1組で、2枚目以降は、高校入試での面接練習に向けて、今までの活動などの振り返りから自己PRを記入する

\*愛知県の公立高校入試では全ての高校・学科で面接が実施される

## 社会を生きる力を育む——キャリア教育の視点で教育活動を捉え直す

### 「学校生活を振り返り 「根拠のある自信」を育む

ドリカムカードの利点は、生徒が自身の活動の軌跡を振り返り、志望を焦点化できることにある。また、教師にとっても、進路希望調査に記された志望校名だけではくみ取るのが難しい生徒の意思や、選択の根拠を知り手掛かりになる。ドリカムカードの記述を踏まえて教育相談や保護者会を繰り返し行ったところ、家が近いという理由だけで志望校を選んでいた生徒が、徐々に自分の可能性に目を向け、志望校を変更し、高校卒業後の姿を思い描いた選択をするようになった。

このように、ドリカムカードの重要な役割の1つは、進路に向かって一歩を踏み出す自信と勇気を与えることにある。

「キャリア教育の目標は、目指す学校に入る、将来なりたい職業を見つけることだけではありません。不確実な世の中で、たくましく生き抜いていく力を付けることこそが真の目標です。そのためには、何よりも生徒が『自分なら出来る』という自信を持つことが重要です。ただし、それは『根拠のある自信』でなければなりません。うぬぼれではなく、自分は今ここまで頑張ったから大丈夫だという体験があれば、この先、つまづくことがあっても、努力すれば次はうまくいくと考えられ、挑戦し続けることが出来るのではないでしょう

うか」（清水校長）

体育大会や合唱コンクールなどの行事後に、「自分が得たもの、皆のために自分が出来たこと」を考えさせるのもそのためだ。行事を通して自分の成長を自覚させることによつて、生徒は自己肯定感を高め、自信を持つて志望動機や自己PRを書くことが出来る。

自分が何が出来たのかに気付いていない生徒には、教師がそつと背中を押す。「昨年の合唱コンクールでは、皆のために頑張れたよね」「体育大会の振り返りで、人の役に立てることが分かったって書いていたね」と声を掛けることで、生徒はきっかけをつかみ、滞っていた筆がすらすらと動き始める。教師の一言が、生徒の過去・現在・未来をつなぎ、進路に向けて力強く歩み始める勇気を与える。

#### ● 成果と課題

### 出口を探す指導から 生き方を考える指導へ

キャリア教育の推進は教師自身が学ぶことも多かったと、佐藤先生は振り返る。その1つは、キャリア教育が決して特別な取り組みではないと認識を新たにしたことだ。

「ドリカムカードを作成して気付いたのは、これまでの取り組みを整理することでキャリア教育は十分行えることです。どの学校、どの学年でも行える『普通の取り組み』であることが、汎用し、定着するためには大切な

です。3年前、進路指導主事を務めていた時には、キャリア教育について、そこまで研究できていませんでした。しかし、これまでの取り組みをキャリア教育の視点から見ると、自分の指導に一本筋を通すことが出来たと感じています」（佐藤先生）

2つめは、キャリア教育の再構築が進路指導について考え直す機会になったことだ。以前は、生徒のために進学先を確保することに力を入れるあまり、必ずしも高校入学後や高校卒業後、社会人となった時のことまでを深く考えた指導にはなっていなかった。

「生徒や保護者と時間を掛けて話し合っただけで志望校にもかわらず退学してしまう生徒を見て、自分の指導は本当に良かったのかという反省もありました。キャリア教育を体系化することで、生徒の内面をくみ取りながら、その生徒が3年間をどんな環境で過ごすかを見通し、きめ細かな進路指導が出来るようになってきたと思います」（佐藤先生）

このような広い視野を持った教師を更に増やさなければならぬと、清水校長は語る。

「キャリア教育を実のあるものにするためには、教師自身が幅広い視野を持っていることが大切です。学校外の人材との交流や外部研修の機会などを増やし、そうした体験を通して教師自身が社会を知り、視野を広げていくことで、本校のキャリア教育も次のステップへ進めたいと思います」